青森民医連医師医学生課発行　-医師を目指す高校生のための医系情報マガジン-　vol.52　4月号

Road to Doctor

春の医師体験開催しました

弘前地区

弘前地区では、健生病院、藤代健生病院、健生黒石診療所に、計41名が参加してくれました。

〇健生病院では、プログラムを大幅に変更し、好評の赤ちゃん抱っこ体験に加え、病棟見学や心肺蘇生を実施しました。先生に付いて病棟を回るという経験は、医学生や医師にならないとできないものなので、貴重な体験ができましたね。今後、少しずつプログラムを変えていきたいと思っているので、もう一度健生病院に来たいという方も、新たな体験を楽しんでほしいと思います。

〇藤代では、精神科のイメージを覆す体験になったと思います。先生に聞きたいことを聞いて、スッキリできたでしょうか。

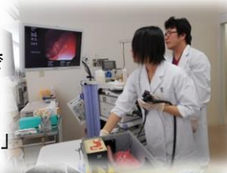
〇黒石では、往診を必要としている人がいること、往診は単に病気を診に行くだけではないことが分かってもらえたでしょうか。

参加者の感想：*自分の想像していたものとは違うものを見たり、聞いたりすることで、自分の知識を広げるだけでなく、精神病患者に対する見方や考え方が変わった。*

青森地区

青森地区では、あおもり協立病院、生協さくら病院、中部クリニックに、計25名が参加してくれました。

〇協立病院では、病院見学や医師との懇談で、病院が医師だけでなく、多職種が関わりあって成り立っているところを見てもらいました。民医連の目指す「チーム医療」が垣間見えたでしょうか。



〇心臓カテーテル体験も楽しんでもらえたと思います。精神科や往診も体験してもらいましたが、どちらも大切な医療であり、民医連が力を注いでいる分野です。

参加者の感想：*今回の体験や懇談会を経験して、“医師って、他の仕事では絶対に経験できないことができる”のではないかと思いました。責任が伴うけれど、他にはない良さが絶対あると思いました。*

八戸地区

八戸地区では、八戸医療生協に計28名が参加してくれました。

〇八戸市民病院の見学、八戸生協診療所の往診を体験してもらいましたが、同じ医師でも、働く姿から受ける印象は違ったと思います。どちらも大切な役割で、どちらがすごいというものではありません。みなさんの目指す医療はどちらが近いでしょうか。将来の自分の医師像を考えるきっかけになればと思います。

参加者の感想：*家族による看護というのは、心身ともに負担がかかるし、治療というのも難しいので、経験を積んで、その人たちの理解者となれるよう頑張りたいと思います。*

こんにちは！進級を迎え、みなさん新しい気持ちでお過ごしのことと思います。暖かくなり、ようやく青森にも春到来といったところでしょうか。桜もほころびましたね。季節の変わり目の体調変化に気を付けつつ過ごしましょう。

さて、今回は、春に行われた医師体験の様子を紹介します。参加してくれたみなさん、医師体験は満足いく内容となったでしょうか。新しい内容が加わったところもあります。みなさん是非また参加してほしいと思います。

また、北海道・東北の医学生の合同合宿として、長崎県に行って来たので、ご紹介します。なぜ長崎県か・・・本文をぜひご覧ください。長崎の現状、日本の過去、そして、日本のこれからを考えてみて欲しいと思います。

青森民医連ではメールマガジンの配信をしています！みなさんの申込みをお待ちしております(^_^)

戦慄の原爆被害を知る 医学生合宿 in NAGASAKI

今年も「医学生合宿」を行いました。北海道と東北の民医連に来てくれている医学生たちが、ともに学び、交流する企画です。過去にあった事実を、現地に行って見て聞いて、時には触り、体感することで、過去・現在・未来を考えるきっかけになって欲しいという想いを込めて開催されています。今年は、「平和」をテーマに、3月16日～18日の日程で長崎県に行ってきました。青森、宮城から入学直前の「医者のたまごのたまご」も参加してくれています。合格したら、みなさんも一緒に行きませんか。

平和の像

崩れ落ちた鐘楼ドーム(浦上天主堂)

佐世保湾の船艇

原爆投下地点に立てられた塔

被爆した一本柱鳥居

被爆し、焼け爛れた背中

今も残る防空壕

熱さで捻じ曲がった給水タンクの鉄柱

長崎に投下された原爆・ファットマン

名物・佐世保バーガー

青森の参加者

長崎県が原爆を投下された地であるということは、歴史で学んだと思います。この合宿では、フィールドワークとして、原爆資料館や原爆にゆかりのある遺跡を巡りました。教科書や資料で見るのと違い、原爆の被害にあった現場に行き、実際に目の前にすると、その爆風の威力や熱さが目に見え、戦慄を覚えます。「もし自分がそこに居たら」と想像するのも嫌になるほど、その被害は凄まじいものでした。戦争は世界各国に多大な傷跡を残しています。平和に向かう第一歩として、戦争を無くせるように考えてみませんか。

メルマガ配信中です！

メールマガジン[Medical News Road to Doctor]第8弾を配信しましたが、届きましたでしょうか？第8弾のテーマは、「Generalist」です。

届いていないという方は、各携帯キャリア・機種ごとの設定方法に従い、「kensei-hp.com」のドメイン指定受信登録をお願いします。

配信希望の方は、青森民医連ホームページ（http://www.kensei-hp.com/）の「お問い合わせ」フォームより、お名前、メールアドレス、高校名、学年を入力して“メールマガジン希望”と書いて送信して下さい。

配信停止希望は“メルマガ停止”と送信下さい。

進路を教えてください！

青森民医連では、医学生向けのRoad to Doctorも発行しています。医学部（医学科）に合格し、引き続き医学生版をご希望の方は、進路・新住所をお知らせください。

希望しない方、進路の変更をされた方も、今後のRoad to Doctorの送付の確認のため、はがきの返信をいただけると助かります。返信のない場合は、継続して高校生版を送らせていただきます。

また、医学部を目指す方を応援する目的で、浪人生向け奨学金制度も設けています。詳細についてはお問い合わせください。

青森民医連では 奨学金制度を設けています

青森民医連は、医学生のみなさんの学生生活が充実したものであるように応援する目的で、右記の表に示したような奨学金制度を設けています。

医学部卒業後は、医師として青森民医連に勤務してもらうことで、奨学金の返還が免除されます。

青森民医連の奨学金制度は、日本学生支援機構などが設けている制度と併用することができます。全国の医学生が対象となります。詳しいことは青森民医連・医師医学生課にお問い合わせください。

時期、学年問わず随時受け付けています。また、浪人生向け奨学金制度もあります。

	特別奨学金	一般奨学金
入学金貸与	有（1年次のみ）	なし
貸与額	**20万円**/月	**10万円**/月
定員	各学年5名	10名
対象	医学部医学科の在校生	
返還免除の条件	卒業後、青森民医連に勤務することで免除されます	
	貸与期間の1.5倍	貸与期間の1.0倍

青森民医連での各種企画の報告はホームページに詳しく掲載しております。
奨学金制度のお問合わせや病院実習のお申し込みは、
ホームページ内『お問合せ』メールフォームよりご連絡ください。

青森民医連　検索

「青森民医連」で検索！

青森県民主医療機関連合会 医師医学生課（青森民医連 弘前事務所）
〒036-8203 弘前市本町95丸ニビル1F　【9:00～17:00】
0172-34-5455
http://www.kensei-hp.com